

## ご近所さんの力

広島県 A I C J 高等学校 3年 清水 野乃子

「オハヨゴザイマス」

毎朝あいさつしてくれる自転車に乗ったご近所さんがいる。私の住む町は瀬戸内海に面し造船業が盛んで、多くのベトナム人やフィリピン人が働いている。ご近所さんもその一人だ。1993年に導入された技能実習生制度は国際協力の一環で始まったが、現状は労働力確保のために企業が制度を利用し「出稼ぎ」として外国人を受け入れるケースが多いという。造船業はそんな外国人に支えられていると言ってもいい。はす向かいのお婆さんが亡くなり空き家になっていた家が再利用され去年から造船会社の寮になった。あいさつしてくれるご近所さんの家だ。夜になると家の脇には自転車7台も止まっている。ここ数年同じような物件が増えた。その様子を見て、これは空き家問題の解決の選択肢の一つになるのでは、と考えたのが、私がこの作文を書こうと思ったきっかけだ。

私は「住み続けられるまちづくり」には彼らのような外国から来ている若いご近所さんの力が必要だと思う。なぜなら、地域の年代別人口分布を見ると65歳以上が38%を占め高齢化を超えた超高齢化が進みさまざまな場面で社会生活の継続が難しくなっていくからだ。例えば、自然災害が起きた場合、高齢者に加え、大人の助けが必要な15歳未満や障害のある人も含めると、約4割が災害弱者になってしまう。明らかに支援される側が多過ぎる。では、現在の人口には含まれていない外国人が加わると

どうだろう。外国から来ている人たちが言葉の壁により災害弱者となるか、町を復興する協力者となるかは大きな違いになるのではないか。彼らには後者になってほしい。せつかく、同じ町内に住んでいるのだから、困ったときは助け合える本当の意味でのご近所さんになってほしい。

あいさつをしてくれる彼らは、毎日大きな弁当箱を下げて出勤し、野菜や魚が入った面白い物バッグを積んで帰ってくる。週末には笑い声や歌う声が窓から聞こえ楽しそうだ。造船のハードな肉体労働に従事し自炊しながら決して広くない家で仲良く共同生活が送れるスキルと能力は素晴らしいと思う。きつとお互いにいい関係を築けたら年寄りばかりの地域に活力を与えてくれる良き隣人になるだろう。

そんな彼らは自国に送金までしているという。それに比べ、なんと私は親に頼り切った自己中心的な生活を送っているのだろう。おまけに私はこれから進学のため地元を離れようと思っている。残念ながら育った地域に貢献する見通しのない私のような若者は、日本全国に大勢いる。そして何を隠そう首都圏への人口流入と未来の空き家の原因をつくる存在だ。

一段落目で述べたように空き家問題解決の選択肢として、外国からの労働者の住居が考えられる。この先、制度が変わり、もっと長く、家族を伴って暮らす人が増えたら、安価な住居として多くの空き家を利用されるだろう。外国人が期間の制限なく家族を伴って暮らすことになれば配偶者など女性の数も増え、介護施設やスーパーなどの商業施設を支える担い手になってくれるかもしれない。もともと空き家が多い地域は生活を支えるさまざまな分野でも働き手不足が問題になっているのだ。つまり、外国からの労働者が家族と幸せに暮らすことで、災害、空き家、人手不足の三つが改善される。

しかし、まだこれは机上の空論だ。私たちはまるでパラレルワールドに住んでいて、まだあいさつしか交わしていない。ゴミ当番も回覧板も彼らの家には回らず、避難訓練の情報も届かない。実習生は滞在期間が終わると自国へ帰り、寮には違うメンバーがやって来るが、実際に今誰が住んでいるかは、

近くに住んでいてもわからない。このままではいざ災害が起きたとき即座に助け合うことはできないだろう。どちらの立場にとっても助け合える関係づくりが必要だ。

そこで、私はまず、ゴミ置き場の注意書きを翻訳した。翻訳アプリを使えば私でも母でもできる。そして避難訓練や防災対策の情報共有について自治体のホームページに提案を書き込んだ。自治体や社会福祉協議会への働き掛けはお金がかからず、未成年でも実家から離れていても挑戦できる。

考えてみれば、住居の問題は労働力とつながり、労働力は人権や差別、インフラ整備、災害や経済につながっている。だから誰もが住み続けられる町をつくるために、外国人も暮らしたいと思える環境整備が急がれる。

私は進学のためここを離れ、就職でも戻らないかもしれない。私の夢は海外留学をして研究者になることだからだ。しかし母にはここでいつまでも安全に暮らしてほしい。そしてこの先、私自身が暮らす町も住み続けられる町であってほしい。

そのために、私にできることは何か。私たちは考え、自ら動かなくてはいけない。このコンクールに出会ったことでそのことに気付くことができた。

まずは明日、彼らに「オハヨゴザイマス」と言われたら「おはようございます。いってらっしゃい」と一言足してみよう。

